

安全推進委員会による工事現場視察の概要

- 1 実施日時 平成25年11月14日（木）午前10時から11時30分
- 2 実施場所 公共関与最終処分場建設工事現場（玉名郡南関町下坂下地内）
- 3 出席者 約40名（委員11名のほか地元住民等）
- 4 概要

工事の進捗状況及び視察のポイントを説明した後、実際に現場にて状況を確認。主な質疑は以下のとおり。

(1) 工事に係る濁水及び湧水処理状況

- ① 雨水の流入で濁水処理の水量が増えても問題ないか。
→ ダム等の大規模工事で使用する十分な処理能力を備えた濁水処理設備を設置しています。
- ② 法面部からの湧水処理はどうするのか。
→ 確実に湧水が確認できる箇所にはパイプを設置することで導水させ、その他の湧水が想定される箇所には砕石側溝を敷設します。

(2) 完成後の湧水処理対策

- ① 地下水を集排水するポリエチレン管は安定化するまで耐久性があるのか。
→ 道路工事の地下水処理対策でも使用されており、安定化するまで十分な耐用年数があります。
- ② そのポリエチレン管の詰まり防止や維持管理はどうするのか。
→ 管の周囲に砕石層を入れて透水性を高めます。地下水のため詰まる可能性は小さいと考えますが、状況により清掃を検討します。
- ③ 底盤コンクリートの下は湧水が溜まった状態になるのか。
→ 湧水は、ポリエチレン管の高さに達すると、管を通過して地下水集水ピットに流れる構造となっています。
- ④ 地下水集水ピットから内田川まで流す排水管が溢れることはないか。
→ 湧水量に対して十分な排水能力があるコンクリート管を敷設しますので、溢れることはありません。
- ⑤ 内田川はポリエチレン管より位置が高いので、地下水は流下しないのではないか。
→ ポリエチレン管より内田川の方が低いため、完成後は地下水集水ピットを経由して自然に流下します。

※ 資料中の断面図参照。



【工事の進捗状況及び視察のポイントを説明】



【底盤部の状況を説明】



【素掘の側溝の様子】



【湧水箇所を確認】



【ポンプによる汲み上げを説明】



【出席者の質問に回答】